

学連委員長に聞く・池内健太（日大）／BOX

2016.6.12 16:32

関東大学ボクシングリーグ戦が開催されている東京・後樂園ホールで、黒いスーツに赤いネクタイをした大きな男性を見かける。その男性は東奔西走し、関係者と会話したり書類を授受したりと忙しそうだが、言葉遣いは礼儀正しく、人当たりが良い。男性の名前は日大ボクシング部の4年生、池内健太さん。各大学から部員が選定され、リーグ戦・トーナメント戦の裏方を仕切る学連委員の委員長である。

毎年、学連委員は5月に始まる1・2部リーグの関東大学ボクシングリーグ戦と3・4・5部のトーナメント戦の準備を1月から開始する。2月に代々木にある岸記念体育館で総会を開き、リーグ戦、トーナメント戦に参加する39大学の学連委員代表者と顔を合わせる。

仕事は様々だが、一例としてはリーグ戦のパンフレット作製である。各大学の監督、選手、コーチなどのデータや写真を取りまとめ、メンバー交換表の授受、各大学からの質疑応答を行っている。苦勞することを聞くと、各大学の学連委員に依頼した提出物が期限内に来ないことや、連絡してもつながらない、返信がない、伝えた内容が間違っていて伝わっているなど、まるでサラリーマンの日常業務に似た苦勞があるようだ。

リーグ戦やトーナメント戦の当日は朝7時前に後樂園ホールに集合。健診・計量の準備と手伝い、グローブの準備・実施、タイマーの設置・運営、対戦表の会場設置、アナウンス、試合の運営全般を行うなど。リーグ戦、トーナメント戦の運営に必要なことを全て取り仕切り、最終試合が終了した午後8時から1時間ほど後片付けを行い、後樂園ホールを出るのは、午後9時頃になるという。

常勝軍団・日大の中では、学連委員長だからといって特別扱いはされない。他の部員と同様に、日大のハードな練習メニューを朝、夕こなし、40人分の食事当番のシフトも当然務める。池内さんはまだ、リーグ戦の出場経験がない。日本一競争の激しい日大ボクシング部なら、それもあることだろう。しかし、あえてリーグ戦に出場できない悔しさはあるかと聞いてみた。「悔しさはある」と。ボクサーであれば皆、池内さんと同じではないだろうか。しかし、池内さんは「リーグ戦の勝利はチームでの勝利。学連委員がいないとリーグ戦は運営できない。学連委員長としてその運営を仕切っている誇りもある」と答えた。

最終学年の今年、個人戦は出場するのか聞くと、ミドル級で出場するそう。是非、赤い日大のユニフォームを着た池内さんを、国体、全日本選手権で見たいものだ。スーツに赤いネクタイは、学連委員長のしるしなのか尋ねると、「日大ボクシング部の正装です」と礼儀正しく答えた。

池内健太（いけうち・けんた）

日大ボクシング部4年。1994年5月10日、愛知県享栄高校出身。高校時代の成績はインターハイベスト16。卒業後の進路は実家の家業を継ぐとのこと。